第24回夏季大学受講者アンケートより

今年の夏季大学は「海と大気」というテーマで大気と海洋の相互作用に重点をおいて1990年7月24～27日の4日間，東京・気象庁講堂で開講された．前年度は伊豆沖海底火山噴火のため気象庁講堂が使用できず受講者を57名に制限したが，今年度はほぼ例年通りの78名の受講者があった．

講義テーマ及び講師は以下のとおりである．

(1) 気候システムとしての大気と海洋　浅井冨雄（東大海洋研）
(2) 海洋大循環　石崎　廣（気象研究所）
(3) 天気図をさぐる—基礎編—　永沢義嗣（気象研究所）
(4) 熱帯の海と世界の気象　新田　勍（気象大学校）
(5) 天気図をさぐる—演習編—　永沢義嗣（気象研究所）
(6) 沿岸の気象　藤部文昭（気象研究所）

夏季大学終了時には受講者にアンケートを実施し，59名から回答があった（回収率76%）．ここで，アンケートの集約の一部を紹介する．

1. 職業等
①教職員24名（高校16，中学校5，大学1，その他2）②学生11名　③気象関連業務5名　④その他19名
2. 年　齢
①15～19歳5名　②20～29歳14名　③30～39歳19名　④40～49歳13名　⑤その他5名
3. 受講の目的
①教養・趣味33名　②教材研究19名　③業務上の参考14名　④その他2名
4. 参加回数
①初回34名　②2回目5名　③3回目5名　④4回以上15名（最多20回）
5. 開講を何で知ったか
①「気象」31名　②「天気」21名　③学会からの「開講のお知らせ」の直接送付14名　④新聞（日経，朝日）3名　⑤その他5名
6. 日本気象学会員かどうか
①会員23名　②非会員33名
7. 受講料（一般6,000円，教職員5,000円，日本気象学会員・日本地学教育学会員・学生4,500円，以上消費税込み）
①適当53名　②安い3名　③高い3名

アンケートには上記の選択枝による回答の他に夏季大学に対する具体的な意見・希望が数多く寄せられた．講義に関しては，「テキストに載っていない講義の資料はコピーして別途配布して欲しい．」という意見が幾つか寄せられた．テキスト作成の際には講師の方々に，講義で使用する図はなるべく多くテキストに掲載してもらえるようにお願いしているが，印刷に間に合わなかった重要な図については当日の配布資料とすることも検討したい．夏季大学全般のことがらに関しては，「OHP・スライドが見にくい．」「照明が暗くてテキストが読めない．」など会場の設備に対する苦情が例年どおりかなり多く寄せられた．会場を含めた設備の改善は予算の制約上困難な面もあるが，今後も努力していきたい．夏季大学で好評だったのは，気象庁内見学，天気図実習，平易な講義，であった．夏季大学の開講時期の希望については，7月下旬が半数以上を占め，8月上旬がそれに次いでいた．夏季大学の希望テーマは，気象衛星関連が最も多く，気候変動や環境問題，集中豪雨などの希望も多かった．

アンケートの項目6でわかるように夏季大学には気象学会員でない方が多く受講されている．教育と普及委員会では夏季大学が，一般の気象に関心を持つ方々にも開かれたものとなるよう，当アンケートの集約結果を今後の運営に反映していきたいと考えています．

（教育と普及委員会）